



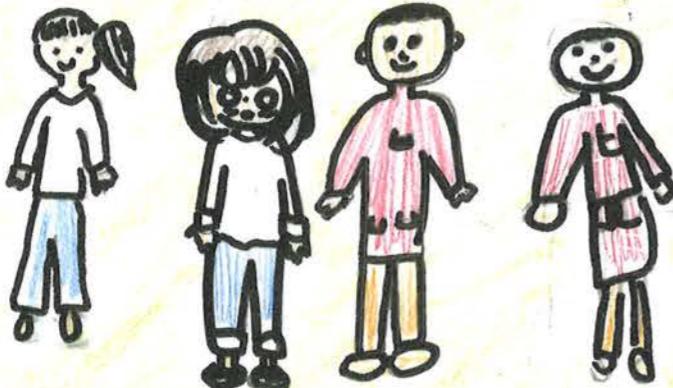
WWF

美しい森と動物

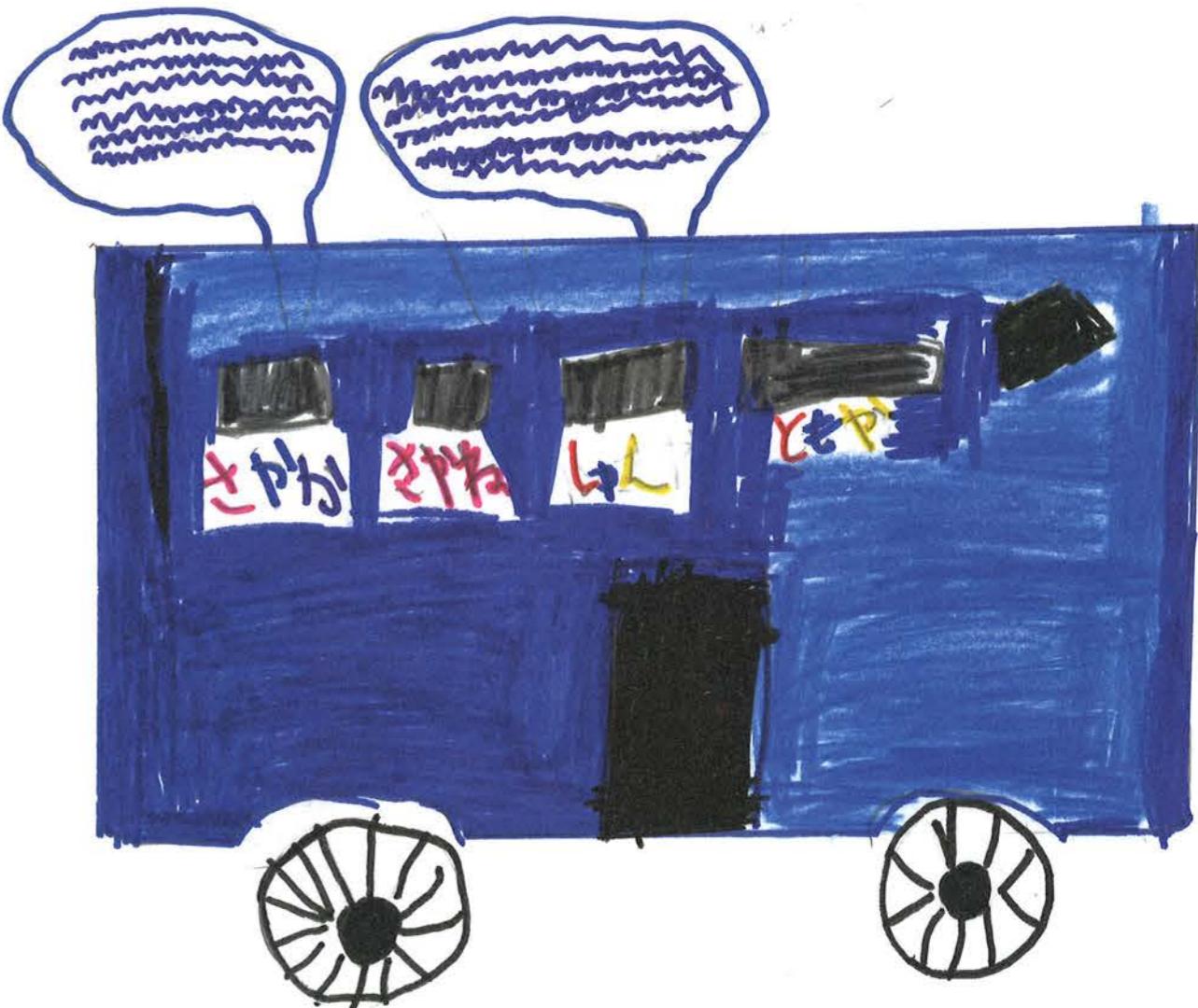
作： 高島
さやか
石井
沙夜音
幡野
竜
加光
智哉



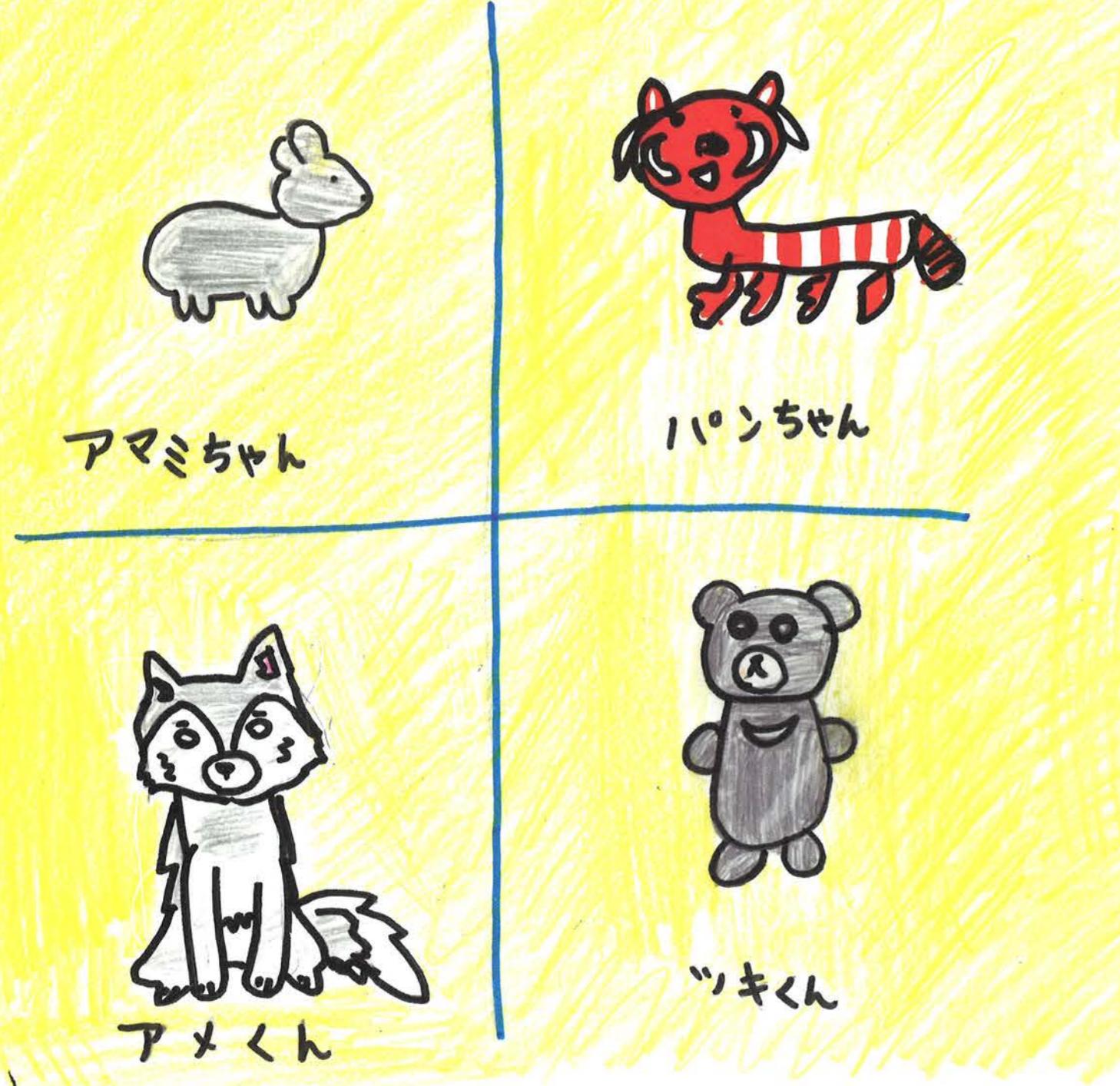
絶滅動物守り隊



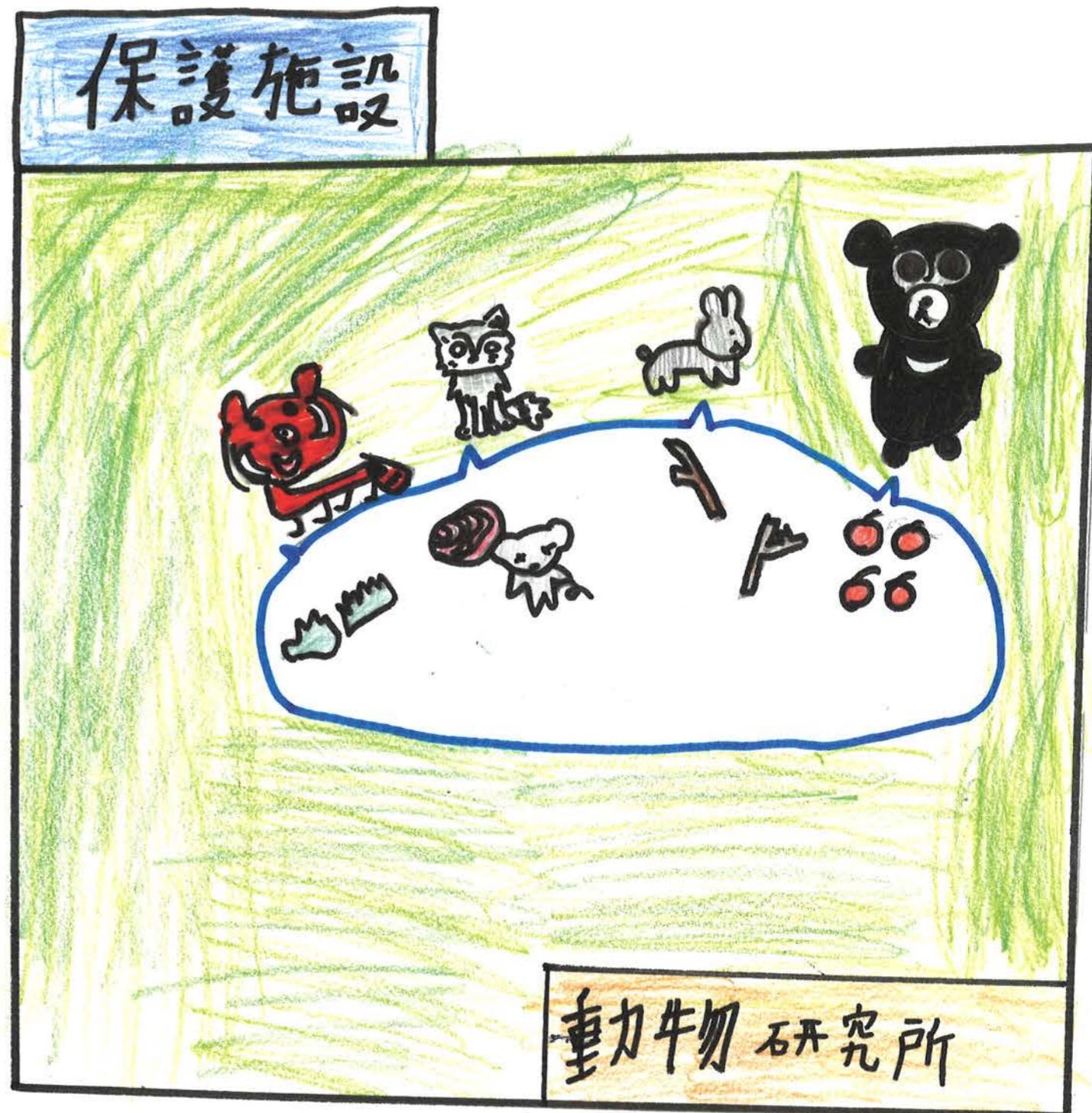
私達は、「絶滅動物守り隊」のさやね、さやか、しゅん、ともやです。私達は地球を守って、安心できる社会を作り、野生生物や森や海を守る仕事をしています。今日は、違法伐採が多発している森へ、野生の絶滅動物を保護しにやってきました。
さやねはアマミ／クロウサギ、さやかはアメリカアカオオカミ、しゅんはツキ／ワグマ、ともやはレッサーパンダを保護することになりました。



苦労して保護したあと、帰りのバスで、森の博士のしゅんが、「森がなくなるのは人間が必要な物のために木を切ったり、悪い人が勝手に木を切ったりしているからだよね。」と言いました。絶滅研究科のさやかが、「だから、私達は生息域外保全という、絶滅しそうな動物たちを保護して増やす仕事をしにきたんだよね。」と言いました。



保護施設に到着すると、4人は集まって、保護することになった絶滅危惧種の動物たちの名前を決めることにしました。話し合って決まったのが、アマミノクロウサギのアマミちゃん、アメリカオオカミのアメくん、ツキノワグマのツキくん、レッサーパンダのパンちゃんに決まりました。動物と話をすることができるともやが、動物たちに、その名前がどうか聞いてみたところ、みんな大喜びでした。



次の日、動物たちがお腹をすかせているようだったので、動物ものしり先生のさやねが、みんながふだん食べているものを準備して、食べさせてあげました。アマミちゃんには若い枝を、アメくんには肉を、ツキくんには木の実、パンちゃんには草をあげました。食べ終わったあと、動物たちが悲しそうな顔をしていたので、動物と話ができるともやを呼んで動物たちの思っていることを聞いてみました。



「どうして、悲しい顔をしているの？」

と聞くと、動物たちはそれぞれ話し始めました。

「私たちは住みかを人間に追い出され、食べ物がなくなり、家族とはな
ればなれになってしまったんです。」

そして、動物たちは、

「自分たちの森に帰りたい。」

と言っていたそうです。

さやかは、

「動物たちが…けど森は人間が伐採しているし…。」

と言いました。さやねは動物たちの話を聞いて、可哀想だと思い、森の
博士しゅんに、聞いてみることにしました。



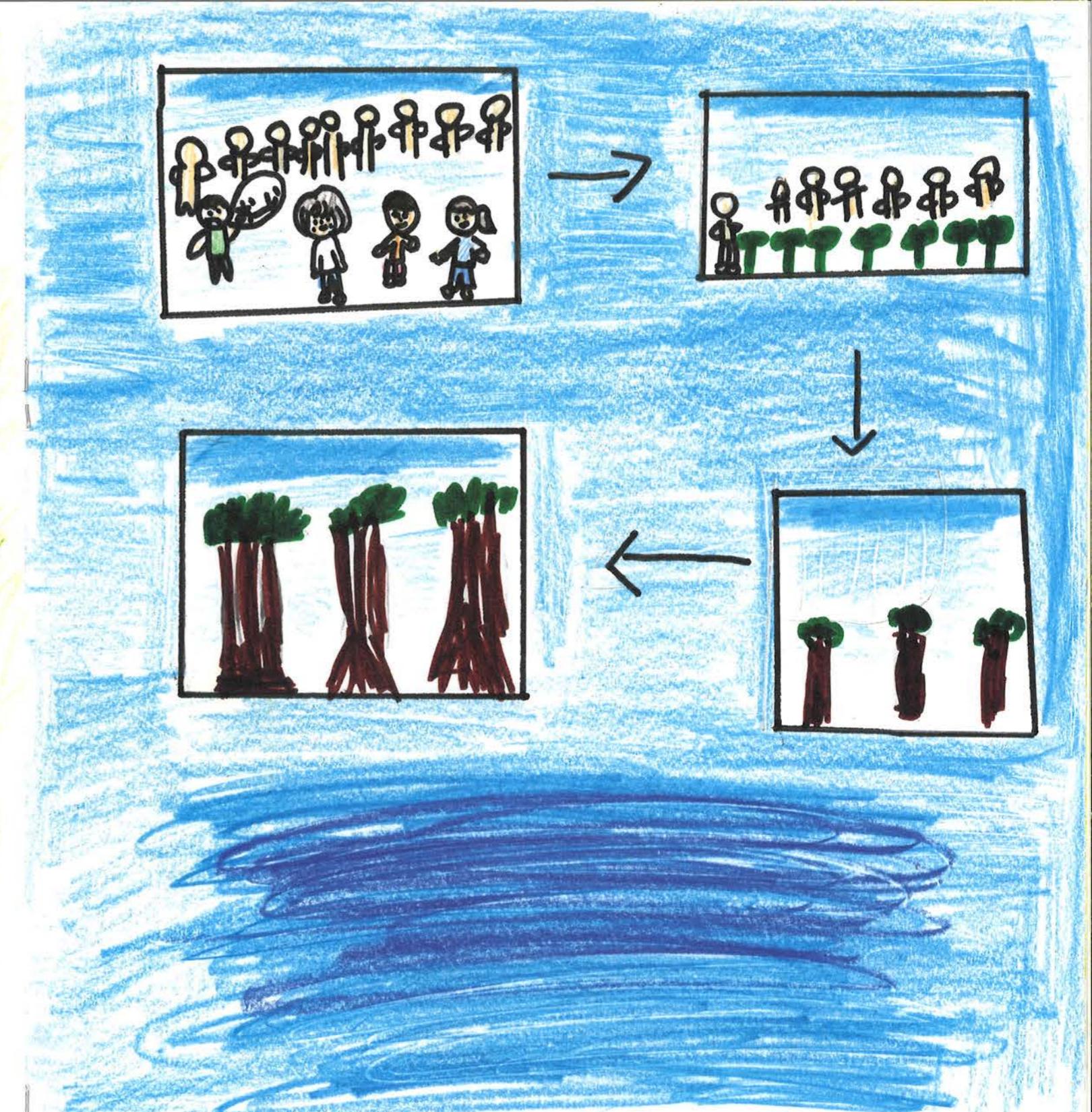
しゅんは、その話を聞いて少し考えたあと、解決案を話し始めました。

「まず、森を保護するために、いろいろな人に呼びかけ、勝手に木を切
る人たちを止めて、僕達が木を植えるのはどうかな？」

みんなはしゅんの話を聞くと、納得して、早速、森を保護し、木を切ら
ないよう人々を説得し始めました。



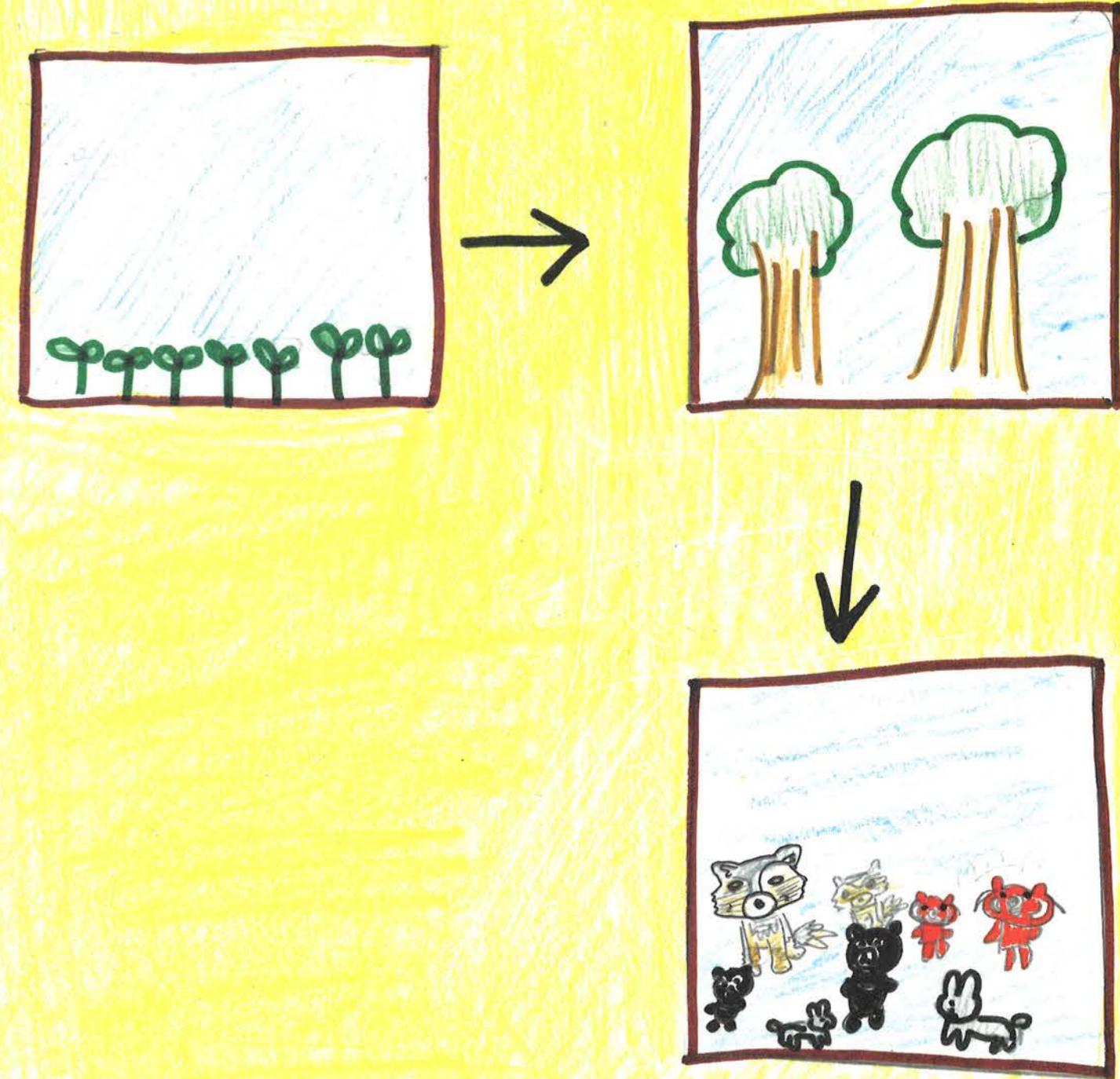
何ヶ月か経って、保護施設では、動物たちは元気を取り戻して暮らすようになっていました。そして、森では、人々に呼びかけたりした成果が出てきました。木と一緒に植えてくれるという人もいれば、違法伐採に反対してくれる人も出てきました。このおかげで、違法伐採をする人や、木をたくさん切る人はいなくなりました。けれど、まだ森に縁はありません。



4人は、呼びかけて集まった人たちと一緒に協力して、毎日毎日がんばって木を植え続けました。とても大変なことですが、動物たちが住みやすいような森にするために、一生懸命働きました。



来る日も来る日も、いろいろな人と一緒に森に木を植えました。みんなで頑張って1年後には1万本もの木をえることができました。



何年か経つと、人の手により一本ずつ丁寧に植えられた木は育ち、緑も増え、動物が住める環境ができました。そして、絶滅しかけていた動物たちは、赤ちゃんを産み、数も十分増えたので、動物たちを森に返すことができるようになりました。

動物たちは、ともやに、

「今まで、私達を育ててくれたり、森を作ってくれたり、本当にありがとうございました！」

と言いました。



数日後、動物たちは森に返されました。
それからまた数か月後、テレビに映っていたのは、4人が保護施設で保
護していた動物達やみんなで育てた森でした。そこには、たくさんの
動物の家族や、美しい森の木々や植物が映っていました。



番組のタイトルは、「美しい動物と森」。
この美しい動物と森を守るために私たちができることがたくさんあります。
これからのおまわりたちにも、森と動物を大切にしましょう。

最後まで読んでくれてありがとう！



この絵本は、2016年に行った「WWFジャパン森林絵本コンテスト」で、優秀作に選ばれた作品を本にしたもの。

いま、豊かな森が減り、野生の生きものたちの数も少なくなっています。世界の環境を守る「WWFジャパン」では、森にすむ生きものたちに、いまどんな問題が起きていて、どうすれば良いのかを学んだ小学生の皆さんから「絵本」を募集しました。小学生の皆さん、授業で、森や自然、野生動物について学んだことや気づいたことを「絵本」にして家族やお友達に知らせようと、一生懸命工夫して物語を作ってくれたのです。

みなさんは、この絵本を読んでどう思いましたか？ 感想を、ぜひ家族や周りのお友達と話し合ってみてください。森や、そこにすむ生きものを守りながら暮らすにはどうすれば良いか考える人がたくさん増えることが、森や動物を守ることにつながるからです。

私たちにできることのヒント「FSC®」マーク

私たちが使う紙は、森の木から作られています。むやみに木を切ってしまえば、動物たちのすむ場所もなくなってしまうかもしれません。「FSC®」は、森の生きものや、周囲に暮らしたり働いている人のことを考えて、きちんと管理された森や、そこから生まれた紙につけられるマークです。動物たちの暮らしにできるだけ負担をかけないように森を使うようにしているので、FSCマークがついたノートなどを使うことは「森を守りながら使う」ことにつながります。ぜひ、このマークを覚えてください。



WWF って？

WWFは、100カ国以上で活動している地球環境保全団体です。1961年にイスラエルで設立されました。地球上の生物多様性の保全と、人の暮らしと自然環境や野生生物に与えている負荷の軽減を柱として活動しています。

現在、特に力を注いでいるのは、森や海などの生態系を保全すること、木材や魚介類など、自然资源の利用を持続可能なものにすること、地球温暖化を防ぐこと。WWFのサポーターになることは、今すぐ、誰もが始められる環境保全です。人と自然が調和して生きられる未来を築くために、ぜひあなたの力を貸してください。



WWF ジャパン（世界自然保護基金ジャパン）

<http://www.wwf.or.jp>

東京都港区芝3-1-14-6F

TEL: 03-3769-1241 (平日 10:00 ~ 17:00) Email:hello@wwf.or.jp

「WWFジャパン森林絵本コンテスト」2016 実施概要

参加校 (ABC順)

British School In Tokyo
Makuhari International School
New International School
Nishimachi International School
Tokyo International School

主催 WWFジャパン

協賛 王子ホールディングス株式会社
監修 堀井清毅 教諭
(Nishimachi International School)





「WWFジャパン森林絵本コンテスト 2016」受賞作品

この絵本は、王子ホールディングス株式会社のご支援により制作されました。

用紙提供：王子エフテックス株式会社

用紙名：OKミューズガリバーグロスハイホワイト 157 g / m²

印刷協力：文化堂印刷株式会社

OJI
Beyond the Boundaries



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙

FSC® C002724